

令和5年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 大分県立宇佐支援学校 ）

1 学校の情報

（１） 学校規模

小学部30名、中学部31名、高等部38名、合計99名の児童生徒および83名の教職員が在籍している。

（２） 分掌の位置づけ

7つの校務分掌があり、学校安全事業としては、生徒指導部が中核となり、教務部や特別活動部とも連携しながら取り組みを進めてきた。

（３） 地域環境

宇佐支援学校は、標高約38メートルにあり、宇佐市の福祉避難所として利用するための協定書を締結している。校区には浸水想定区域・土砂災害警戒区域が数多く存在している。そういった環境の中で、地震や土砂災害を主とした防災教育の在り方や、児童生徒の登下校時に発災した時の対応、学校待機となった場合の備え等について検証するとともに、保護者や地域の防災意識を高める実践的研究を行うのに適する学校である。

2 取組のポイント

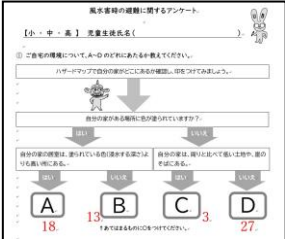
○児童生徒・・・「災害に備えて、自ら身を守る力を育てる」

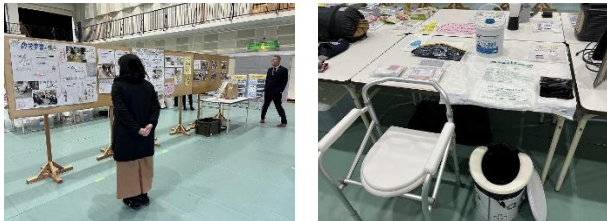
○保護者・・・「家庭で被災した際の対応力をつける」

○教職員・・・「防災に関する知識の充実と体制づくり」

3 具体的な取組

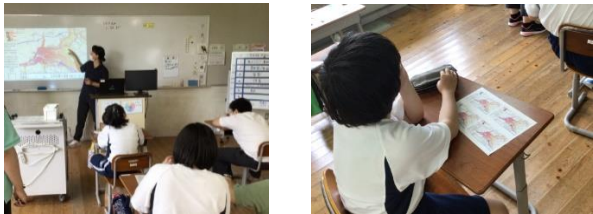
実施時期	実施事項
6月23日	第1回実践委員会を開催
7月5日	保護者研修会①「防災講座と体験・試食会」を実施 

7月11日	火災避難訓練及び煙体験を実施  
7月21日	被災地支援活動への参加（中核教員1名）
7月27日 8月23日	教職員研修「スクールバス被災想定訓練①」を実施 教職員研修「スクールバス被災想定訓練②」を実施  
8月26日	被災経験者からの聞き取り（中核教員1名）
9月27日	福祉避難所および、保護者研修会についての協議【中核教員2名、糸口山自治会1名、宇佐市役所福祉課2名】
10月10日	スクールバス危機管理マニュアル作成の打ち合わせ①【中核教員2名、大分県防災アドバイザー1名】
10月12日	第1回推進委員会への参加
10月19日	第2回実践委員会の開催
10月31日	風水害時の避難に関するアンケートを保護者に実施し、結果を宇佐市役所福祉課と共有  
11月30日	スクールバス危機管理マニュアル作成の打ち合わせ②【中核教員2名、大分県防災アドバイザー1名】  

12月7日	地震避難訓練および防災学習を実施 大分県防災アドバイザーによる教職員事後研修を実施 
12月8日	保護者研修会②「避難所の種類と個別避難計画について」を実施 緊急時引き渡し訓練実施 
12月14日 ～15日	令和5年度学校安全指導者研修会への参加【中核教員1名参加】
12月20日	令和5年度大分県防災教育モデル実践事業公開研究発表会の開催 
1月18日 2月26日	第3回実践委員会の開催 第2回推進委員会への参加

授業実践・全校集会での働きかけ

小学部	学活「いろいろな防災グッズを試してみよう」 
-----	--

中学部	『災害から、自分の安全を守ろう～マイ・タイムラインを作ろう～』 
高等部	作業学習『ぬかるんだ場所を歩いてみよう』 国語『説明書を読もう』 
全校集会	① 6月・・・防災とは？・・・「知る」＋「備える」 ② 7月・・・台風、大雨について、防災クイズ ③ 12月・・・地震避難訓練に向け、避難行動について ④ 1月・・・能登半島地震について 

4 取組における成果と課題

(1) 成果

- 煙体験や起震車体験、防災グッズや非常食体験など体験的な学びが多くできた。
- 児童生徒が、家庭で災害の話題を出すなど身近になった様子があった。全校集会などでも災害や防災についての話を取り入れた効果もあるのではないかな。
- 『障がい特性と避難行動』『避難所の種類と個別避難計画』など、様々なテーマで保護者研修会を実施できた。また各家庭の避難のニーズをフローチャートで確認できるアンケートを実施するなどして、防災についての保護者の学びと防災意識の啓発を図る取り組みを実施できた。
- スクールバスの被災想定訓練を通して危機管理マニュアル新規作成につなげることができた。
- 避難訓練や引き渡し訓練など、各種訓練において、事後研修会やアンケートを実施したことで、課題を明らかにし次の改善につなげることができた。
- 福祉避難所のあり方について宇佐市福祉課や危機管理課と協議する機会を持ち、連携を深めることができた。

(2) 課題

- 今年度は、パターン化した訓練しか行えておらず、あらゆる場面を想定した訓練を行い、児童生徒の対応力をつけることが今後の課題である。
- 今後も継続して防災に係る研修会を実施していくこと、そして、保護者の参加率を高めていき、全体的な防災意識の向上を図ることが今後の課題である。

- スクールバスの危機管理マニュアルを新規作成することができたが、教職員には充分周知できていない。
- シナリオなしの訓練など、実際の災害時に生きる実践的な訓練の実施や、ヘルメット・防災頭巾等物品の整備を進める必要がある。
- 福祉避難所としての在り方を今後も宇佐市と協議していきながら、検討する必要がある。

5 今後の取組の見通し

- ◆火災避難訓練、地震避難訓練などについて、昼休みなど通常とは違う場面設定で行ったり、シナリオなしの訓練を行ったりして、児童生徒や教員が実践的な対応力がみにつけられるようにする。
- ◆学期末授業参観日などを活用し、今後も保護者対象の研修会を実施し、防災意識の向上を図る。
- ◆新規作成したスクールバスの危機管理マニュアルを活用し、職員を対象にした災害想定訓練などを実施し、より実践的なかたちにしていく。
- ◆宇佐市との協議を続け、本校の福祉避難所の役割を明確にしていく。